

# 第4学年国語科学習指導案

令和5年10月11日(水)

## わくわく・どきどき・チャレンジ蔵前 Next stage へ ～協働×問い＝深い学び～

目指す児童像：相手の話を聞いたり、友達との考えを比較したりし、学び合う子

1 単元名 気持ちの変化を読み、考えたことを話合おう (12時間)

教材名 「ごんぎつね」(光村図書 4年下)

### 2 単元の目標

知識及び技能	・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。(知(1)オ)
思考力、判断力、表現力等	◎文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。(思C(1)カ) ・登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。(思C(1)エ) ・文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(思C(1)オ)
学びに向かう力、人間性等	・言葉のもつよさに気付くとともに、思いや考えを伝え合おうとする。

### 3 単元の評価規準

知識・技能	・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。(知(1)オ)
思考・判断・表現	・「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(思C(1)エ) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(思C(1)オ) ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(思C(1)カ)
主体的に学習に取り組む態度	・進んで登場人物の気持ちの変化を想像し、学習課題に沿って、感じたことを文章にまとめようとしている。

## 4 児童の実態

# 略

## 5 単元について

この教材は、兵十とひとりぼっちの小ぎつねのごんの物語である。最後の場面は、兵十に撃たれてしまうが、自分の気持ちが伝わったと思って死んでいくごとと、初めてごんの行いに気付く兵十の思いが描かれるこの物語のクライマックスとなっている。4年生の子供にとって、さみしい小ぎつねであるごんに自分を重ねて心情を想像しながら読むことができる作品である。「孤独」という共通点を持ちながら、最後の場面まで心を通い合わせることができないごとと兵十との関係に引き込まれながら読み進めることが予想される。また、美しい情景描写と登場人物の心情を重ねて読むことにより、豊かに想像を膨らませることができ、登場人物の心情を想像して読むというねらいにふさわしい教材であると思われる。

## 6 研究主題に迫るための手立て

「協働×問い＝深い学び」を実現させるための工夫

### 手立て① 4つの問いの工夫

- ・児童の疑問と学習計画を確認し、学習の見通しをもてるようにする。 (「理解の問い」)
- ・考えを交流する時には、共通点や相違点に目を向けさせ、友達との感じ方に違いがあることに気付けるようにする。 (「関連の問い」)
- ・第9時以降では、第8時まで学んだことを生かし、物語や登場人物についての考えを深めて話合えることができるようにする。 (「方略の問い」)
- ・学習計画表を活用し、視点を示して学んだことの振り返りを書けるようにする。 (「振り返りの問い」)

### 手立て② 自分の考え方のもたせ方の工夫

- ・気持ちを問う発問をする場合は、困っている児童に気持ちを表す言葉のヒントカードを提示して、そこから自分の考えと似ている言葉を選べるようにする。
- ・登場人物の行動や気持ちが分かる文に色分けしてサイドラインを引き、叙述を基に登場人物の気持ちが想像できるようにする。
- ・第3時から第7時の振り返りで「ごん日記」を書くことで、ごとと自分を重ねて心情を想像できるようにして、自分の考えをもたせやすくする。

### 手立て③ 協働の工夫

- ・個人で考えた後、グループで考えを交流し全体で共有することで、様々な考えに触れ、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付けるようにする。
- ・考えを交流する時には、共通点と相違点を話合うようにさせ、交流の目的意識がもてるようにするとともに、司会を決め、一人一人が考えを伝えられるようにする。
- ・発表ノートを活用して話合った内容を全体で共有できるようにする。

## 7 指導計画（本時は 4/12）

時	○主な活動内容	◎指導上の留意点 □評価 ・手立て
1	○4年生後半の学習の見通しをもち、P11の題名やリード文から物語を想像する。 ○「ごんぎつね」についての初発の感想をまとめる。 ○ごんがどんなぎつねかを話合う。	◎P4～8や、P11の「これまでの学習」を基に既習事項を振り返らせ、本単元の学習にいかす意欲をもたせるとともに、題名やリード文からどんな物語かを想像し、話合わせる。 ◎P161「人物を表す言葉」などを参考に、ごんを表す言葉を考えさせる。
2	○学習課題を設定し、学習計画を確認する。	☒既習事項をいかして読み、登場人物の気持ちを捉えている。(記述・発言) ☒単元目標を理解し、進んで「ごんぎつね」を読んで、学習計画を立てようとしている。(観察・発言) ・手立て①②③
3	○「1」の場面で、ごんが兵十にしたことと、そのときのごんや兵十の気持ちをまとめる。 「ごんはどんな気持ちで兵十にいたずらをしたのか考えよう。」	<第3時～7時> ◎友達の発表を聞いて、新たに気づいたことや考えを改めたことなどについて、まとめるようにする。 ◎情景描写などの表現について気付かせる。 ◎場面ごとのごんや兵十の気持ちを想像する時は、気持ちを表す言葉のヒントカードなども参考にさせる。
4 (本時)	○「1」の場面で兵十にしたことを踏まえ、「2」の場面について、ごんの気持ちの変化をまとめる。 「兵十のおっかあが死んだと分かった時、ごんはどんな気持ちだったのか考えよう。」	<第8時> ◎第3時～第7時でまとめた場面ごとの気持ちなどを参考にして変化に気付かせる。
5	○「3」の場面について、ごんが兵十にしたことと、そのときのごんの気持ちをまとめる。 「くりや松たけを持って行った時、ごんはどんな気持ちだったのか考えよう。」	<第9時> ◎P31下段3「テーマの例」やこれまでのノートなどを参考にして、まとめさせる。
6	○「4」と「5」の場面について、ごんの行動や気持ちの変化をまとめる。 「神様のしわざと言われた時、ごんはどんな気持ちだったのか考えよう。」	☒P162の「気持ちを表す言葉」や辞書などを使って、登場人物の気持ちを表す語句を知り、文脈に合わせて使っている。(記述) ☒場面と場面を結び付けたり比べたりして、登場人物の気持ちの変化を読み取っている。(記述)

7	○「6」の場面について、最後のごんの気持ちをまとめる。 「最後の場面で、ごんはどんな気持ちだったのか考えよう。」	<p>思 情景描写や会話等の表現や叙述を基にして、登場人物の気持ちを想像している。(記述)</p> <p>思 読んで理解したことに基づいて、感想をもっている。(記述・発言)</p>
8	○ごんと兵十の気持ちの変化について考えたことをまとめ、話合う。	<p>主 自分なりの問いをもって文章を読んだり、友達の発表を聞いたりして、より豊かに登場人物の気持ちを想像しようとしている。(記述)</p> <p>・手立て①②③</p>
9	○詳しく読んで分かったことなどを基に、物語や登場人物についての考えをまとめる。	
1 0	○テーマを決めて話合い、自分の考えを深める。 〈テーマの例〉 ・「ごん」や「兵十」はどんな人物か。 ・「ごん」のつぐないの気持ちは、「兵十」にとどいたのだろうか。 ・物語の結末についてどう思うか。 など	<p>&lt;第 10 時&gt; ◎前時までの児童の記述やテーマごとに、3～4 人程度のグループを作っておく。 &lt;第 11・12 時&gt; ◎P32「たいせつ」を押さえたうえで、ポップに取り組ませる。</p> <p>思 友達の感想や考えを聞き、考え方に違いがあることに気づいている。(記述・発言)</p>
1 1 1 2	○「ごんぎつね」を紹介するポップを作成する。友達と紹介し合い、感想を伝え合う。	<p>主 情景描写に着目したり、複数の叙述を結び付けたりして読もうとしている。(観察)</p> <p>・手立て①③</p>

8 本時の学習（4/12）

（1）目標

・「2」の場面を読み、ごんの行動について叙述を基に捉え、そのときのごんの気持ちを想像することができる。

（思考力・判断力・表現力）

（2）展開

	○：学習活動	T：教師の問い C：予想される児童の反応	◎：指導上の留意点 □：評価 ・手立て
導入	○前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認する。		◎前時のごん日記から、前時のいたずらについて振り返る。
	兵十のおっかあが死んだと分かった後、ごんはどんな気持ちだったのか考えよう。		
展開	○「2」の場面を音読する。  ○後悔するごんの気持ちを読み取る。 ○問いに対する自分の考えをノートに書き、友達と考えを交流し合う。 ①個人 ②グループ ③全体	T:兵十のおっかあが死んだと分かった後のごんの気持ちに注目して音読しましょう。  T:兵十のおっかあが死んだと分かった後、ごんはどんな気持ちだったでしょう。  C:20 ページ8行目で「そのまま、おっかあは、死んじゃったにちがいない。」と考えていて、自分のいたずらがなければ、おっかあや兵十がつらい思いをしなかっただろうと、罪悪感がある。  C:20 ページ7行目で「兵十は、おっかあにうなぎを食べさせることができなかった。」と考えていて、いたずらがいきすぎてしまった。どうしようと頭を抱えている。  C:20 ページの1行目に、「いつもは、赤いさつまいもみたいな元気のいい顔が、今日はなんだかおれしていました」とあって、兵十を悲しませてしまって後悔している。	◎音読が終わった児童には、重ねて「1」の場面から文章を読ませ、場面のつながりを意識できるようにする。  ◎サイドライン（事前学習）を基にすることで、叙述に基づいて考えられるようにする。  ◎考えを交流する際には、グループの共通点を話合うようにさせる。  ◎グループで話合った共通点を、発表ノートを用いて全体に共有させる。  思登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。  (ノート・発言) ・手立て①②③

		<p>C:22 ページ4行目で、ごんがうなぎのつぐないをしていたから、これからつぐないをしていこうと思っている。</p> <p>C:20 ページ3行目で、「おれと同じ、ひとりぼっちの兵十か。」とあるから、兵十をひとりぼっちにさせてしまった。兵十に何かおわびをしてあげなければなと思っている。</p>	
まとめ	○本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	<p>T: ごん日記を書きましょう。</p> <p>C:いたずらばかりしていたけれど、しなければよかった。おっかあにも兵十にもつらい思いをさせてすごく後悔している。これからつぐなっていこう。</p> <p>C:兵十のおっかあはうなぎを食べたかっただろうに、自分のせいでそれができなくなってしまった。いたずらをしてごめんなさい。</p>	<p>◎「1」の場面のごん日記と比べて、ごんの気持ちの変化を確認する。</p> <p>・手立て②</p>

## 9 板書計画

<p>① ごん日記を書きましょう。</p>	<p>本文の拡大コピー</p>	<p>十月十一日</p> <p>いごんがつよ</p> <p>兵十のおっかあが死んだと分かった後、ごんはどんな気持ちだったか考えよう。</p>
---------------------------	-----------------	--

気持ちを表す言葉 ヒントカード

気持ちを表す言葉 ヒントカード

- ・おちゆう
- ・期待
- ・心温まる
- ・関心をもつ
- ・心が晴れる
- ・ぐっとくる
- ・とくいになる
- ・はりきる

- ・がっかり
- ・なやむ
- ・頭をかかえる
- ・こりる
- ・思い込む
- ・反省する
- ・やるせない
- ・にくい
- ・いい気がしない
- ・おそれる
- ・切ない
- ・じれったい
- ・いたわる